

会議報告書

会議名	令和 7 年度 宇和島市食育推進会議
会議日時	令和 7 年 9 月 24 日（水）18 時 30 分～19 時 30 分
会議場所	宇和島市役所 801 議室
出席者	委員(敬称略) 竹田一彦、中尾美鈴、久保田紀江、三瀬正廣、谷口静子、井関恭子、三好綾、蝶野一徳、若宮里美、猪野ユカリ 事務局 横山保健福祉部長、保険健康課
協議事項	1. 開会挨拶 横山保健福祉部長 2. 委員紹介 各委員より自己紹介 3. 会長選出 会長：竹田委員（委員互選により選任） 副会長：井関委員（会長指名により選任） 4. 協議事項 （1）宇和島市食育プラン〔第 4 次〕について ・計画の位置付け ・宇和島市の現状 ・食をめぐる現状と問題まとめ ・目指す食育推進の方向 ・計画の推進に向けて ～質疑応答・意見交換～ 委員：小児の健康問題が思ったよりも多く出ている。健康問題が出ているということをもうちよっと周知していくと良いのかなと思った。血液検査で所見のある人が 3 割小学生・中学生にいるということはやはり問題なのではないか。その点について、食生活を改善するためのモチベーションに繋げるための何か一步があると良いかと思うが、どういったことを考えているか。 事務局：小児生活習慣病予防健診のデータを基に、データの分析結果や改善方法についての内容を市の HP 上に掲載している。また、啓発用のチラシを作成し、健診を受診した全ての家庭に配付して周知するなどの取り組みを実施している。 進行：小児の問題について、脂質検査の方は小学生で 33.8%、中学生で 13.1%。中学校になって減っているが、部活動で運動するようになることが関係するのではないか。核家族化により小学校の運動場等でみんなで遊ぶことが少なくなっており、家で一人で遊んだりすることが多いので、そういう問題が増えているのではないか。 委員：食品ロスについて、7 割以上が行動を意識しているという割にはものすごい食品ロスが出てきているような気がしているが、どういう風な統計をとっているのか。 事務局：健康づくり推進計画と一緒にアンケートを取っている。（対象：18 歳以上の市民 591 名と小学生 4 年生 340 名、中学 2 年生 454 名、高校 2 年生 529 名） 何らかの行動というところで、例えば買い物のときにマイバッグをもっていく等、そのあたりも含めて食品ロスとしての取組というところで上がってきたアンケート結果になる。 委員：年をとったら食べる量が減ってくるのか。 進行：個人差はあると思うが代謝が悪くなるので一般的に食べる量は減ってくると思う。 委員：男の料理教室で提供されるレシピの量について、参加人数との兼ね合いで調整が難しい。基本的に材料を一人分余分に買うため、量が多くなり、みんな必死に食べる。高齢になると食べる量が減るという認識が薄れてくるのではないかと思うが、その辺りはどうか。 進行：独身男性が料理教室のようにたくさんの料理を家で作るのは難しい。教室で皆と一

緒に作る楽しさが食べる意欲を高めることもある。教室の開催回数を増やし、みんなで集まる機会を多くすることで、食べることに慣れてきて、より楽しく生きるというような形に変わっていくのではないかと。

委員：健康を意識した食生活を送るというところで、3次計画の問題で食品を購入する際、食品表示を見ていないとあるが、私もほぼ見ていない。品物によるとは思うが、何を中心に見たらいいのか教えていただきたい。

事務局：栄養成分表示にはエネルギー、たんぱく質、脂質、塩分などが記載されている。血圧が気になる方は塩分量を確認すると良い。母子手帳の交付時や幼児健診、小児相談の際に個別で栄養成分表示に関する話をさせていただいている。ほとんどの加工食品に書いてあるため、ぜひ参考にいただければ。

委員：農家出身で幼少期には魚をほとんど食べていなかった。現在は仕事として宇和島に来て水産に関わっている。結局は生まれ育った環境から人間は少しずつ変わっていくため、そういったことを食育という大きな目標に少しでも導くことができれば良いのではないかと。

進行：委員は農家出身で漁業関係に勤めておられるが、例えば愛媛県出身でも、宇和島の鯛飯と北条の方の鯛飯とは種類が違う。どちらかというと北条よりなのか。

委員：東予出身で、23歳で宇和島に着任。それまでは南予地方や松山に足を踏み入れる機会が少なく、出かける際は松山より高松に行くことが多かったが、炊き込みご飯の流れで鯛飯が東予地方 今治・北条の鯛飯という印象だった。宇和島に来て、水産の仕事を通じて白身魚を使った鯛飯を初めて食べたが、異質な感じがした。さつまはもっと異質で、愛媛県内でも特に東予地方にはその文化がほとんど存在しないため、2回ほど食べた経験があるが、それも独特な印象だった。

(2) 今年度の取組について

①各課のいちおし事業について

- ・農林課：宇和島市産業まつりで新品種「紅プリンセス」の売り出しや子ども向けイベントを実施。
- ・水産課：魚のさばき方教室を4回開催予定（現在2回目を募集中）
- ・生活環境課：ダンボールコンポスト出前講座の実施、「おいしい食べきり運動推進店」登録店舗の募集（R7.3月現在31店舗登録）
- ・生涯学習課：家庭教育支援事業での食育講座の実施。各公民館での高齢男性の料理教室や麦みそづくり講座など様々な講座の開催。
- ・こども家庭課：地場産物を使用した講座の実施。人気のあるいちごの講座を増回予定。
- ・学校：食に関する指導教材の作成、地場産物を取り入れた献立の作成。
- ・保険健康課：11月15日に食育イベントを開催予定。津島地区を重点地区として「高血圧」への取組を継続。小児生活習慣病予防事業の実施。食生活改善推進協議会での「野菜たっぷり塩ちょっぴり」弁当の配付。

②食育連絡会の取組について

今年度は特に朝食摂取啓発を重点課題として取り組む。

特に20～40代の保護者世代に欠食が多い現状が課題。学校と連携し、朝食メニューをホームページに掲載予定。その他、元気うわじまサポートバンクの活用、パネル展やイベントによる食育の周知を図る。

～質疑応答・意見交換～

<朝食の摂取啓発について>

委員：病院業務を通じて朝食欠食者に関わるが多い。入院中の患者は病気を契機に朝食を摂る方向に変わることが多いが、入院を機に変わるよりも、日頃から健診や家庭での地道な啓発をしていくことが必要なのではないかと。

委員：宇和島市の食育アンケートでは幼稚園や保育園、認定こども園の子どもたちの朝食摂取率が国の調査より高いと報告を受けている。一方で、保護者世代では朝食が飲み物のみや不十分なケースが多いため、具体的な取組をどのように行っていくかについて知りたい。また、保育園では栄養バランスの取れた給食が提供されているため、子どもたちは1日1回は満点の食事が摂れているのではないかと。

<その他の取組について>

委員：生活環境課による「おいしい食べきり運動推進店」の募集について商工会議所の飲食店の役員会で紹介をしていただいた。また、4次計画の食に関連する健康問題 成人の状況に関し、会議所が健康診断の費用の一部（2000～3000円程度）を負担して従業員の健康意識向上に努めている。今後も課と協力し、情報提供を進めていきたい。

進行：美味しい食べきり推進店の31店舗は、どこを見ればその店舗がわかるのか。

事務局：宇和島市HPの生活環境課のページに具体的な店舗名が掲載されている。

委員：食品の物価上昇により食生活が変化している。生の野菜にこだわらず、冷凍食品を組み合わせることで栄養価を高める料理方法もある。家庭の中でそういった取組をしてはどうか。

委員：朝食欠食について

幼児の欠食があること自体が驚くべき事実であり、その理由として、親の忙しさや習慣の問題が大きいのではないかと推測する。子どもだけではなく働き世代・親世代へのアプローチを両輪で行っていくことが必要。習慣が付いた上での栄養バランスなのではないか。

子どもの健康問題について

保健所では学校で子どもと親と一緒に高血圧やたばこ、動脈硬化について学ぶ事業を3年間実施している。今後も子どもから親が学ぶような事業を学校の中で実施させていただきたい。

働き世代へのアプローチ

健診受診後、結果をどう見て、どう自分で気づいて生活習慣を変えていくかという点が大切であるが、零細企業の場合は時間が取れず難しい。そのあたりのアプローチを行政も一緒に取り組むことができればと考えている。

食育推進会議の委員について

委員の中に教育関係者として学校現場の方が加わると良いのではないか。小学生、中学生、高校生と欠食等の問題も増えてくる。高校生は地域に向けて発信できる力もあるため、食育の地産地消等についてはより発信力を高められるのではないか。

5. その他

事務局：来年度の食育推進会議について、年度初めの開催を検討している。昨年度末食育プランを立て、9月に今年度の取組として紹介させていただいた。その結果を踏まえた上で、来年の早い時期に開催できればと思っている。

6. 閉会